

大鹿村中央構造線博物館たより 128号



今年も
ヨロシク!

2020年1月発行

TEL:(0265)39-2205
staff69@mtl-muse.com

大鹿小学校 6 年生理科授業「地層の作り方」

昨年11月7日の午前中に大鹿小学校の理科校外授業がありました。大鹿小学校の校庭にある岩石園を見てから、小学校前の河原に降りてみました。小渋川は、10月16日の台風19号のときに増水して、真っ黒な水が川幅いっぱいに流れていましたが(写真1)、この日は川底が見えるくらいに澄んだ水が穏やかに流れていました(写真2)。



写真1 2019年10月12日台風19号襲来時の小渋川



写真2 2019年11月7日の小渋川

河原には、増水したときに流れてきた流木や、河川敷に敷いていたと思われるプラスチックのゴミが散乱していました(写真3)。河床の表面を見てみると、れきがごろごろしている場所と、れきの表面をうっすら砂が覆っている場所などがあり、変化に富んでいます。また、河床の断面を見ても、れきが多い層と砂が多い層があり、やはり一様ではないことがわかります(写真4)。



写真3 河原は流木やゴミで荒れていました。



写真4 河床断面

河原の観察の後、対岸の中央構造線博物館まで歩いていき、博物館の裏手で地層を作ってみる実験をしました。何度か大雨が来たという想定で、実験装置の樋(写真5)の上に乗せた土砂を水でプラスチックの容器に流し込む操作を数回繰り返し、プラスチックの容器の断面をのぞいてみると(写真6)、粗い砂礫がたまっている層と、細かい砂がたまっている層がしましま模様を作っている様子が観察できました。(宮崎)



写真5 地層を作る実験装置



写真6 プラスチック容器内にできた地層を観察

大鹿中学校 1 年生理科授業「中央構造線の学習」

昨年11月11日の午前中に大鹿中学校 1 年生理科校外授業がありました。まず中学校で衛星写真をみながら中央構造線が関東から九州まで延びていることを確認してから、マイクロバスに乗り込み、途中寄り道しながら安康露頭まで向かいます。早速、JAしお里店前で途中下車し、中央構造線の通っている位置を見てみました(写真7)。南側を見ると、尾根の途中が凹んでいる様子が見えますが、この場所が、断層鞍部といって、中央構造線が通っている場所になります。中央構造線の近傍は岩が脆くて侵食されやすいので、このような地形ができます。次に、西集落の一番高い場所から、断層鞍部が連なっている様子を遠望しました(写真8)。さらに、中尾集落の上からも、中央構造線の断層谷を見ました。



写真7 鹿塩しお里店前から城山の断層鞍部を見る



写真8 西集落からみた断層鞍部の連なり

地形観察の後には、岩石の観察をしました。まず、安康露頭手前の南沢で、中央構造線のすぐ内帯側(日本海側)に分布しているマイロナイトという岩石が露出している様子を見ました(写真9)。また、南沢に転がっている石は、すべて中央構造線の内帯側の石でした。一方、安康露頭の手前の青木川の河原では、中央構造線の内帯側の石と外帯側の石が混在していました(写真10)。(宮崎)



写真9 南沢にはマイロナイトが露出している



写真10 安康露頭